

第1学年 英語科学習指導案

日時 平成27年10月29日(木) 公開授業Ⅳ
生徒 1年2組 男子16名 女子17名 計33名
指導者 小井田 史子

1 単元名 POWER-UP Speaking 2 持ち主をたずねる

2 単元について

(1) 教材について

学習指導要領は、2 内容 (1) 言語活動 ア 聞くこと (ア) 「強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく聞き取ること。」 (ウ) 「質問や依頼などを聞いて適切に応じること。」 イ 話すこと (ア) 「強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく発音すること。」 (イ) 「自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝えること。」 3) 言語材料 エ 文法事項 (ア) 文 d 「疑問文のうち、動詞で始まるもの、助動詞で始まるもの、or を含むものおよび疑問詞(how, what, when, where, which, who, whose, why,) で始まるもの。」 の指導事項に関わる教材である。ここでは、疑問詞 **which** と **Whose** を扱う。この二つは小学校では触れなかった疑問詞である。**which** や **whose** は、**what** で質問するよりも、限定された情報の中から答えを選択するので、応答しやすい対話になる。持ち主をたずねる表現を普段から英語で言えるようになると、日常生活の中での使用頻度も多くなり、たずねる表現の定着も図ることができると考える。さらに、既習表現を使ってそれぞれ2~3文の英語の対話ができるようになるならば、英語によるコミュニケーション能力を身に付ける教材になると考える。また、3年間を通して、電話の会話、買い物、レストランなどの場面でよく使われる特有の表現に慣れることが中心になる教材である。

(2) 生徒について

生徒たちは、これまで学習した基本文等の理解、言語や文化の知識・理解についてはおおむね満足できる状況にある。しかし、その言語材料を使って、事実を相手に伝える(話す)表現活動では、恥ずかしさや苦手意識が先に立つことが多く見受けられる。そのため、適切な声量で聞き手を意識して明瞭に話したり、大切なところは強調したりして、相手とコミュニケーションを図ろうとする生徒は少ない。そこで、大きな声でコミュニケーションを図れる生徒たちになるためには、この単元で学習する、誰の持ち物なのかを尋ねる身近な表現を使って、発表することが自信につながると考える。オリジナルの対話文は、実際に生活の中で使える便利な表現である。それを発表する活動を通して、簡単に英語で会話ができたという達成感を味わわせて、積極的に英語によるコミュニケーションがとれる生徒にしたい。

(3) 指導にあたって

持ち主をさがす対話表現を見通した後で、自分たちも似たような対話を考えて、オリジナル作品の発表をさせたいと考える。**Whose** から始まる対話もあるだろうが、今回は、何か注意を引く物を見つけて **Look!** と言ってから対話をスタートさせたい。その後、グループ4人で、1人1回、自然な流れの対話文を考えさせたい。このように実用的な言語活動を位置付けることによって、**Whose** の使用場面が具体的にインプットされる。そして、ダイアログをアウトプットさせる。生徒たちは友達の発表を聞いてさらにインプットする。また、他者の内容を聞いて理解を深める。こうした活動を通して、**Whose** の表現の定着を図りたい。そして、本時の授業で学習したことを振り返って(発表して)共有し合い、学習の定着や課題解決の達成感を持たせることを目指す。

3 単元の目標

- which, whose を使って持ち物について対話を発表する。 【外国語表現の能力】
- which, whose を使った対話文の内容を理解する。 【外国語理解の能力】
- 相手に十分伝わる音量・抑揚・間に気を付けようとしている。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

4 指導計画 (POWER-UP Speaking 2 持ち主をたずねる : 2時間扱い 本時2/2)

時間	学 習 活 動	
1	持ち主の品物はどちらなのか、Which を使ったダイアログを発表する。	
1	誰の品物なのか、Whose を使ったダイアログを発表する。	・・・ 本時

5 本時の指導について

- (1) 目 標 注意を引く物を見て、誰の物なのか尋ねるダイアログを発表しよう。
 (2) 評価規準

観 点	B おおむね満足できる	B に到達させるための手だて
外国語表現の能力	条件を満たした Whose を使ったオリジナルのダイアログを作成し、グループで発表できる。	文の形や意味を、繰り返し口頭練習をして定着を図る。
外国語理解の能力	条件を満たした Whose を使ったオリジナルダイアログの内容を理解することができる。	パターン・プラクティスを繰り返し練習し、単語の発音・意味の定着を図る。

(3) 指導の構想

- ・モデルリーディングを学習し、条件付きのオリジナルダイアログを作るための見通しを持つ。
- ・4人グループでオリジナルダイアログを作成し発表する。その発表を聞いて、次の表現に活かすために振り返りをする。

(4) 展開

段階	学 習 活 動	形態	○教師の働きかけと指導上の留意点 ●評価の観点(方法) ☆「見通す・振り返る」活動
導入	1 Greeting	全	○教師の働きかけと指導上の留意点 ●評価の観点(方法) ☆「見通す・振り返る」活動
	2 Warm-up ・前時の Writing Test	ペア 全	
	3 Oral Introduction ・ Whose ~? の導入	全	
	4 本時の学習課題の確認	全	
15分	注意を引く物を見て、誰の物なのか尋ねるダイアログを発表しよう。		
	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><形式条件>① 注意を引く物を見て、“Look!” で始める。 <場面条件>② 学校での対話。場所はどこでも良い。 <展開条件>③ 自然な会話の流れになるように。 ④ グループ内で1人1回以上話す (Look! は1回に入れない。) ⑤ 誰の物か分かった後に、1回以上コメントを言う。</p> </div>		<p>ex.) A : Look! B : This is a new racket. C : Whose racket is this? D : It's Yuki's A : It's good.</p>
展開 20分	4 オリジナルダイアログの作成	G	○配慮が必要な生徒の指導に入る。
	5 グループの練習	G	○意欲的な練習ができるような声掛けをする。
	6 グループの発表	G	○発表を聞くよい態度について確認する。

週末 10分	7 本時の振り返りをする。 ・自己評価	全 全	●協力し合って作成・発表することができたか。【表現】 ●他の発表を聞いて理解することができたか。【理解】
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> ・条件以上の文を考えて発表ができた。 ・他のグループの内容も面白かった。 </div>		
	8 Greeting ・次時の連絡		